
彼氏のためなら[私]

ももたろす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼氏のためなら「私」

【Nコード】

N0370T

【作者名】

ももたろす

【あらすじ】

今まで、順調に続いていた優子と隼人。

優子は隼人との違和感に気付き・・・

辛いけど、

純粹なラブストーリー

彼氏のためなら「私」

私、峰岸 優子は16歳高校1年生成績も運動神経も全て普通の地味な女子高生だ。

でも、周りからはどう見えてるか分からないが、今の私は、

幸せでしようがないなんて言っただって、彼氏がいるからだ。

高校2年生の河原 隼人という男子だ。部活は、サッカー部に所属している。先輩の部活が無い日は放課後デート。

「こんなに幸せでいいのだろうか？」
と思っていた・・・
だが、ある日のこと
私が、

「明日は部活休みだったよね？」

「ああ・・・」

アレ？なんか、違和感が・・・

「放課後どこ行く？」

「・・・」

「先輩？」

「！あ・・・ああ・・・」

「疲れてるんじゃないの？あはは」

「・・・」

「で！明日どうする？」

「ちよっとしんどいから、メールで決めよう・・・」

「うん・・・」

「じゃあ、ばいばい」
「うん！」

なんか、おかしくなかった？

雰囲気が一瞬にして冷えたっていうか・・・

よく考えれば、

告白したのも私だし・・・

先輩は優しいから・・・

携帯が震えた

「わ！メールだ！！！」

《ごめん。やっぱり明日、無理だ。》

え・・・

もしかして浮気？

な訳ないよね！！！！あはは・・・

「アレ？」

「一気にどしゃ降りの雨のように優子の目からは涙が零れていった」

彼氏のためなら「私」2

そういえば・・・

先輩の噂を聞いたような・・・

「!!!!!!」

よく

「前に女の子と手をつないで歩いてた」

っていう噂を聞いたような・・・

一応メールしてみよう

《今日は何してたの?^^^》

・・・

返事がこない。

どおして?

私、なんかしたっけ?

付き合い始めた頃、

どんな噂を聞いても、

全く耳に留める事がなかった。

先輩も私が好きだから付き合い合ってくれたんだよね?

また優子の目には大粒の涙が零れた。

それでも優子は

「付き合わなきゃよかった」

なんて、一度も思わなかった。

好きだからこそ本当の事を知りたい。

そのとき

携帯が震えた

！

《ああ、今日はサッカー部のメンバーで遊んでたわ。》

直ぐに返事を打ち出す

《そっかぁ！お疲れ様〜》

今の時刻は午前1時を廻っていた。

10分後に

《疲れたから寝る。おやすみ》

《おやすみなさい^^》

また、

噂の事など頭になかった・・・

今日は日曜日、

一人で本屋に行った私。

「アレ？」

目の先には先輩と見知らぬ女性。
腕組んでる・・・

あ・・・あはは・・・

ううう

私は耐え切れなくなって
その場に座り込んだ。

一粒一粒の涙を自分の手で拭った。

彼氏のためなら「私」3

「大丈夫？」

声を掛けられ

上を向いた・・・

「誰だっけ・・・」

！

サッカー部の人だ！

「隼人の彼女さんだよ？話聞こうか？」

「大丈夫です。」

「なんか相談あったらいつでも連絡して」

彼はメモに番号を書いて私に預けた・・・

「じゃあ！」

不意に手を振りそうになった

どおして私が手を振るだけのことを

拒むのか・・・

それは、彼氏という人がいながら、

他の男の人とかかわるのが、

少し気が引けるのだ・・・

帰宅し、真っ先に携帯を開いた。

〔新着メール1件〕

!

恐る恐るメールを開く。

先輩だ・・・

《明日、放課後話があります。会えますか?》

《はい。どこで待ち合わせにしますか?》

いつもなら、遅れて返事が来る。

でも、今回ばかりは違った・・・

すぐに返事が来る。

《5:30にGビルのエントランスで。》

《分かりました。》

いつも通り、

朝、起きて用意をすぐに済ませた。

学校が終わり一人Gビルに向かっていた・・・

先輩が先に着いていた・・・

「・・・・・・・・・・よっ・・・・・・・・!!」

私は一礼する。

.....

沈黙の中、私は重い口を開いた。

「話って何ですか？」

「.....」

「もしかして、私の事嫌いになっちゃった？あはは.....」

「嫌いになる訳なんてない!！」

「じゃあ.....」

「.....え？」

「じゃあ何であの女と腕組んでたのよ.....」

「っっ!アレは違う!！」

「何が違うのよ.....。もう辛いよ.....」

「ごめんな.....。辛い思いばっかさせて本当にごめんな.....」

どおして謝るの？

「何で.....」

「え？」

「なんで謝るのお.....」

頭の中が真っ白になった

え・・・

気付いたら自分の家のベッドの上だった・・・

・・・

置手紙・・・

《話はまた今度にしよう。ゆっくり休めよ。》

どおして優しくするの？

！！

携帯が震えた・・・

「知らない番号・・・」

ピッ

「もしもし・・・」

彼氏のためなら「私」最終話

「……もしもし……」

「あ！出た！」

「？」

「隼人の彼女さんだよね！」

「はあ……」

「……！隼人が優子ちゃんの家まで優子ちゃんを運んでいった帰り、車にはねられた……」

「つつ！どこの病院ですか！」

「D総合病院！行つてあげて！命に別状はないから！」

「……はい！」

今の服の上にパーカを羽織り真つ先に駆け出した！

D総合病院に着いた……

「河原 隼人の関係者ですけど！」

「河原様なら、102号室におりますがどういふ御関係で？」

「彼氏！私の彼氏！」

「ほらコレ！プリクラ！」

「と言われましても……。ご家族の方しか入れなくなっているの
で……」

「いいじゃないか」

「医院長！」

私はハツとした……

「！」

「峰岸優子さん……龍二から聞いておる……」

「龍二？だれそれ・・・」

「ありがとうございます！」

2階にいるみたいだ・・・

「先輩！」

「ああ・・・優子か・・・」

初めて名前を呼ばれた・・・

「優子に辛い想いをさせてたから、バチがあたっただんな。あはは」

「そんな・・・」

「え？」

「そんな事ない！」

「今日・・・お前・・・誕生日だろ？だから、放課後、誘っただよ・・・」

てっきり忘れてた・・・

「3週間で完治するって！」

「遅くなるけど、そのときにプレゼント渡すよ・・・な？」

「うっうっ・・・」

「俺、またなんか、した？」

違う・・・違う・・・！

「・・・がっ・・・」

「え？」

「違う！」

「よかった・・・」

先輩は私を抱きしめた・・・

「で、どこ怪我したの？」

「ああ……。腰……」

「ぷっ……。あはははは！お腹痛い！」

「お前！あはは」

「3週間なんてあつという間だよ！」

「だな！」

「あ……。あのさあ……」

「ん？」

「先輩のお友達で龍二って人いる？」

「ああ……。いるよ！黒髪で、背高い。」

「なんで？」

「私がこの病室に入れたの……。龍二って人のおかげなの……」

「龍二いい奴な！」

「ねー！お礼言わないと！あ！毎日来るから！」

「おう！」

「……。……。は……。やと……。とか呼んでみたりして。

えへへ」

「もっ！可愛すぎ！」

クリスマスも誕生日もずーっと2人でいようね

彼氏のためなら「私」最終話（後書き）

これで、完結です*

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0370t/>

彼氏のためなら[私]

2011年5月7日16時55分発行